

環境報告書2024



ミクニパーテック株式会社



目次

社長挨拶	1	長期環境目標(ミクニCN目標)	4
ロケーション	1	CN(カーボンニュートラル)	4
会社概要	1	順守評価	6
売上高	2	産業廃棄物	7
事業紹介	2	今後の取組み内容	7
沿革	2	マテリアルバランス	8
環境/労働安全衛生マネジメント体制図	3	環境基本理念・方針	9
ステークホルダーエンゲージメント	3	当社環境目標設定書	10
環境影響評価	3		

社長挨拶

弊社は美しい緑が広がるこの牧之原市にて1988年に設立致しました。豊かな自然環境の中で事業を展開できることは、私たちにとって大きな誇りであると同時に、大きな責任でもあると認識しております。

このかけがえのない自然を守り続けるために、私たちは親会社である株式会社ミクニおよびミクニパーテックの環境目標である「2050年カーボンニュートラル」の達成に向け、CO2削減のための様々な取り組みを行っております。2023年度には兼用調整池に太陽光発電設備を設置し、電力使用量の大幅な削減を実現いたしました。さらに現在は、カーポート式太陽光発電設備の設置も進行中であり、再生可能エネルギーのさらなる活用に努めております。2025年度以降も、持続可能性を意識した施策の検討と実施を継続してまいります。

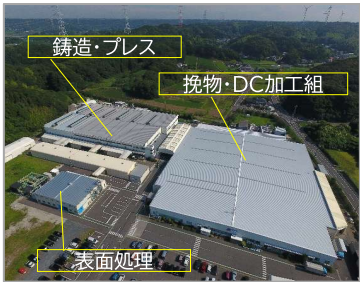
また、弊社はブランドメッセージとして「つくる・まもる・ひらく」を掲げています。アルダイキャストを中心に、ダイカスト鑄造、単・順送プレス、金属加工、組立、塗装・表面処理までを一貫して行う生産体制のもと、これまで培ってきた技術力で製品を「つくり」、品質と安全を「まもり」、そして環境保全と持続可能な発展を通じて、地域社会とともに未来を切り「ひらく」ことを目指しています。

本報告書では、弊社の環境に対する取り組みや今後の展望について、皆様に関わりやすくお伝えすることを心がけております。今後とも環境と共生する企業として、責任ある行動を積み重ねてまいりますので、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



ロケーション

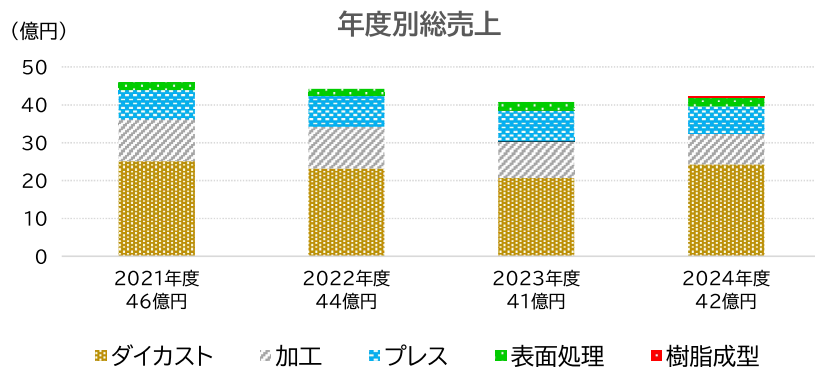
弊社は東名高速道路 相良牧之原インターから車で約20分、菊川インターからは25分と交通の便に恵まれております。



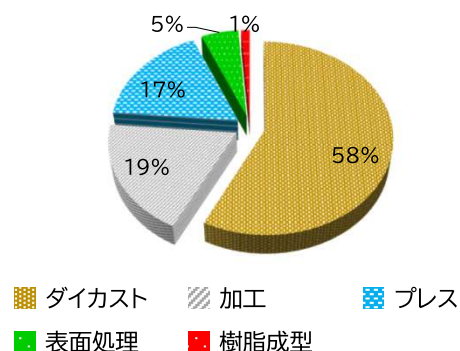
会社概要

会 社 名	ミクニパーテック株式会社
設 立	1988年 5月 2日
代 表 者	代表取締役社長 稲葉 哲
所 在 地	静岡県牧之原市笠名500-1
資 本 金	4.8億円
出 資 者	株式会社ミクニ:100%
事 業 内 容	自動車関連及びガス産業機器の製造及び表面処理 ダイカスト、金属加工・組立、挽物、プレス、表面処理、樹脂成形
従 業 員 数	281名 (2024年度平均)
敷 地 面 積	99,400㎡
建 物 延 床 面 積	20,043㎡
認 証 取 得	ISO9001・ISO14001・ISO45001
お 問 い 合 わ せ	TEL:0548-58-1620(代) FAX:0548-58-1694

売上高

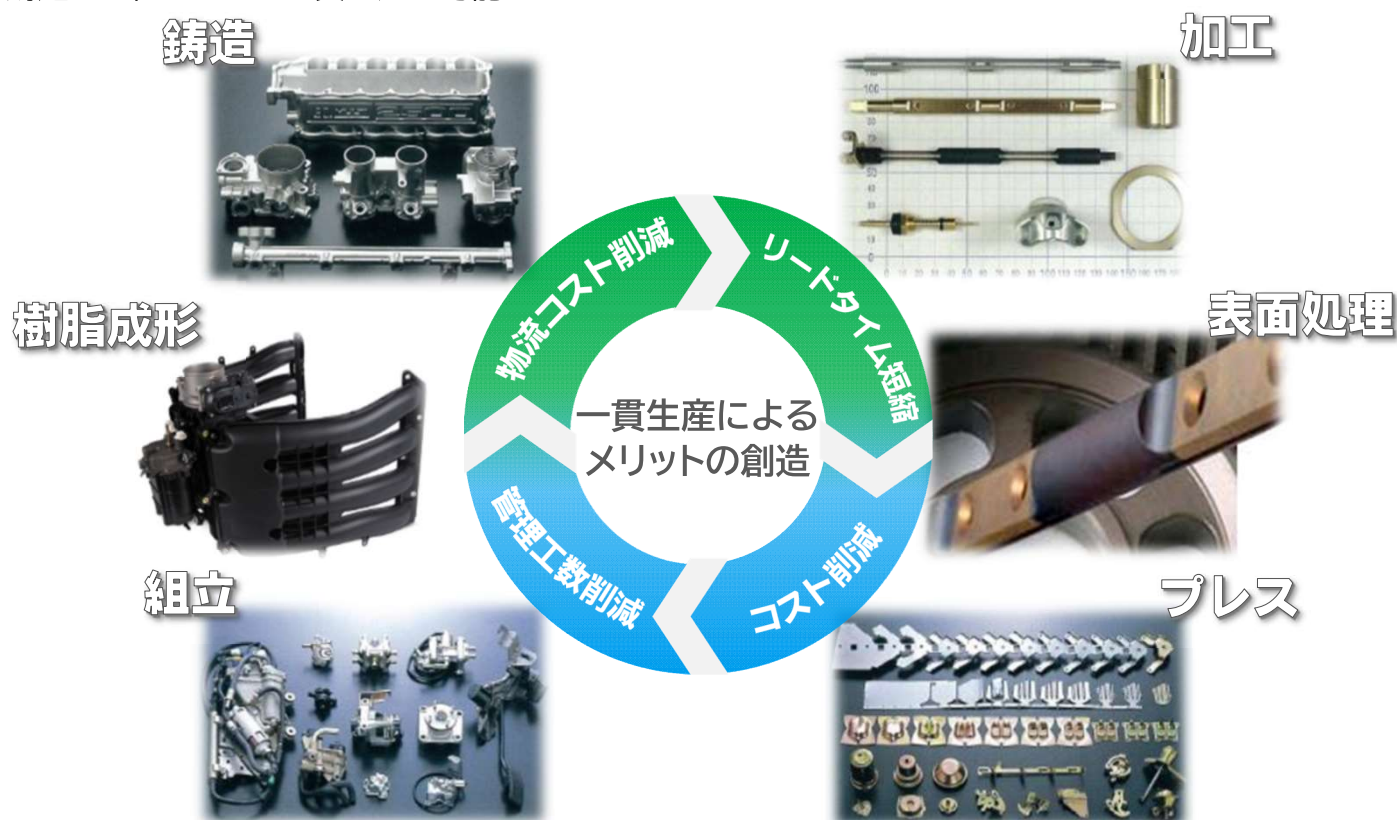


2024年度事業別売上比



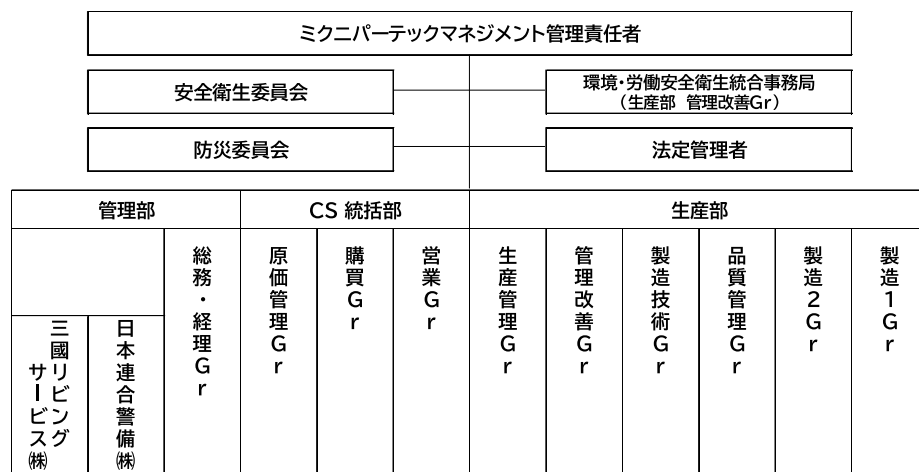
事業紹介

鋳造から組立までの一貫生産が可能

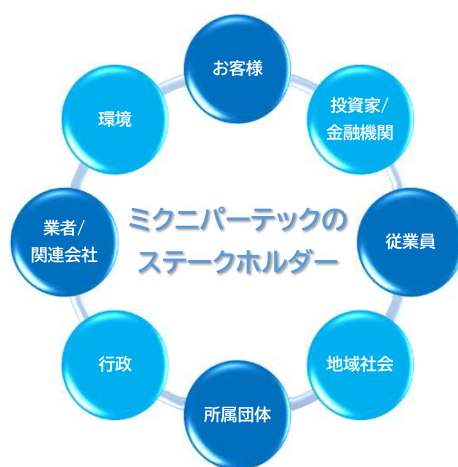


沿革





ステークホルダーエンゲージメント



ミニパーテックを取り巻く社会と共存・共生し持続的に成長していくため、様々な活動を展開しています。

環境に関する法令の順守を通して社内だけでなく地元地域の環境への悪影響となるリスクを未然に防ぐこと、また使用する環境負荷物質の削減や代替を進めることにより、環境だけでなく従業員の健康にも配慮していきます。

今後においてもステークホルダーとの対話からニーズを的確に把握し、地域や社会の課題に取り組み、理念としている「モノづくりで社会に貢献する」を目指して参ります。

環境影響評価

パーテックの事業活動が環境に与える影響を抽出し、取り組むべき有害・有益な環境側面としてまとめ、計画を立てて実践しています。

有害な環境側面

1	CO ₂ 排出	4	環境関連教育不足
2	産業廃棄物発生及び分別不足	5	騒音・熱・有害物質などの環境の悪化につながる物質の排出／漏洩
3	環境活動が不足するベンダーの選定	6	資源の消費(材料や副資材、水道光熱や紙など)

有益な環境側面

1	不良低減による在庫、廃棄物削減及びエネルギー抑制	11	講師力量アップによる安全・品質・環境及び生産性に関する教育の質の向上
2	設備停止時間削減によるエネルギー有効活用	12	教育参画者の力量アップによる安全・品質・環境及び生産性意識の向上
3	生産時間短縮によるエネルギー抑制と在庫削減	13	作業環境測定及び工場巡視による環境・労働安全基準や順守事項の維持管理
4	自発的・積極的な省エネ／改善活動によるリスクの低減やエネルギー抑制	14	従業員の健康管理推進及び有所見者への治療促進
5	設備点検や維持改善による 安全性向上・環境負荷要因低減／資源消費の抑制	15	コミュニケーションによる、内部・外部における連携及びリスク共有
6	廃棄物分別徹底による有価引取り及びリサイクルの推進	16	グリーン調達ガイドラインに沿った、製造や調達における環境負荷物質の管理
7	初期管理推進による環境・労働安全衛生リスクの予防及び低減	17	環境美化活動による地域とのコミュニケーション
8	化学物質の既存・新規・代替管理による環境負荷物質の抑制	18	VA・VEの実施によるエネルギー削減、及び顧客満足度や売上アップ
9	設備・化学物質リスクアセスメント実施と対策／管理徹底と使用者への教育	19	資源の有効活用
10	環境・労働安全衛生に関する緊急事態による被害最小化のための訓練及び備え		

長期環境目標（ミクニCN目標）

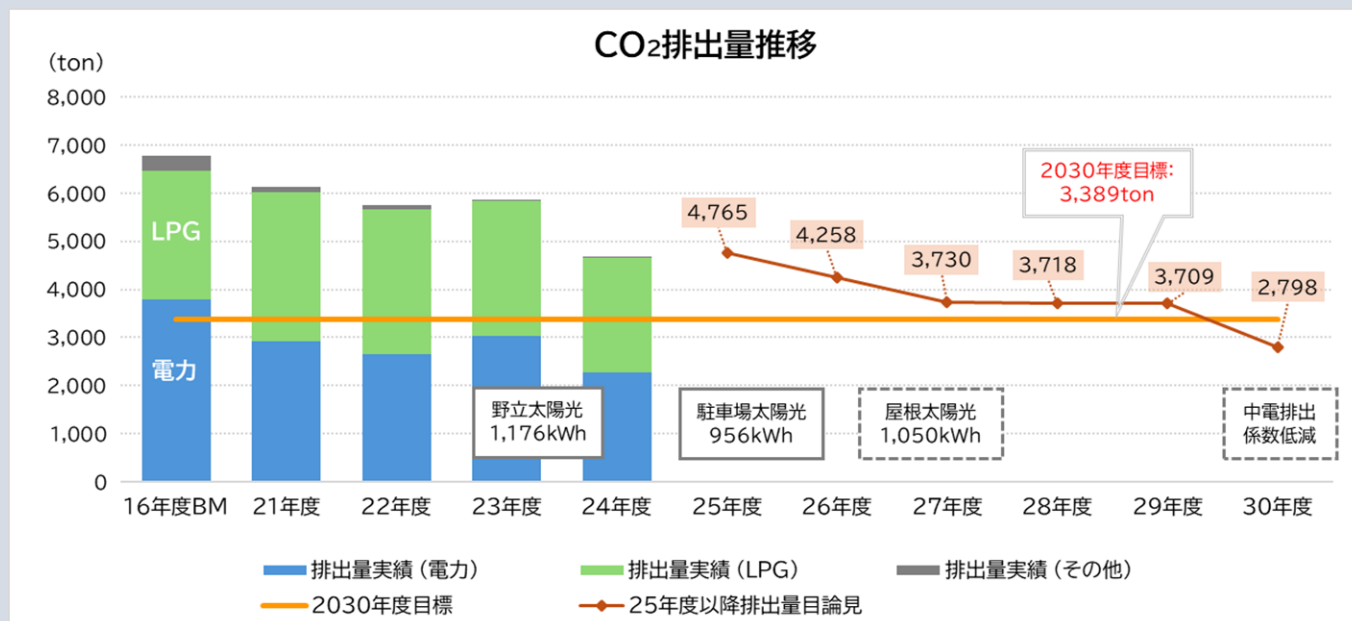


親会社である(株)ミクニが2021年に策定した長期環境ビジョンに基づき、2022年3月にグループで2050年度カーボンニュートラルを目指すとする長期環境目標を決定しました。

※コントロールが困難であるためScope3のカテゴリ10および11を削減目標から除外しています。

CN（カーボンニュートラル）

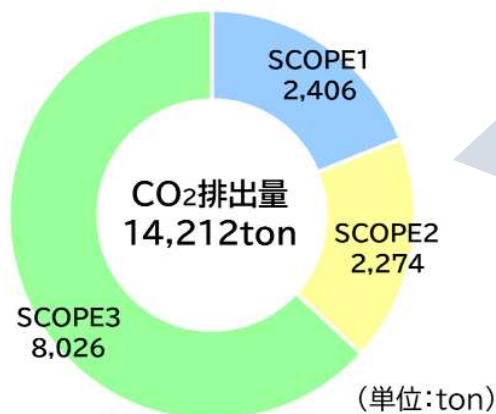
パーテックにおけるCO₂排出目標と実績 ※Scope1,2のみ



	BM:2016年度実績	実績:2024年度実績
CO ₂ 排出量	6,778.6t	4,679.5t
削減量	—	−2,099.1t
削減率	—	▲31%
原単位	2.847t	2.174t

使用エネルギー別比率(%)	
ガス(LPG)	51.16
電気	48.59
ガソリン	0.20
軽油	0.03
灯油	0.02
重油	0.00

2024年度Scope1-3実績



《Scope1》 企業が直接的に排出するCO₂

パーテックのScope1 : ガス(LPG)、ガソリン、灯油、軽油

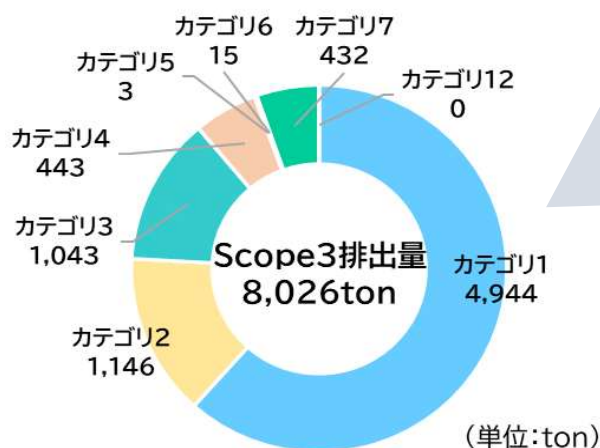
《Scope2》 企業が購入した電力や熱から間接的に排出されるCO₂

パーテックのScope2 : 電力

《Scope3》 企業のバリューチェーン全体にわたる間接的な排出

パーテックのScope3 : 以下Scope3情報参照

SCOPE3カテゴリ別排出量 (対象とするカテゴリ:1~7,12)



【カテゴリ 1】 購入した製品・サービス

【カテゴリ 2】 資本財

【カテゴリ 3】 Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動

【カテゴリ 4】 輸送、配送 (上流:仕入れ先→パーテック→顧客)

【カテゴリ 5】 事業から出る廃棄物

【カテゴリ 6】 出張

【カテゴリ 7】 雇用者の通勤

【カテゴリ12】 販売した製品の廃棄

Scope3排出量推移



事業者自らによるCO₂の直接排出であるScope1、供給された電力の使用に伴う間接排出であるScope2と比べ、自社の事業活動に関連する事業者、製品の使用者が間接的に排出するCO₂の総量がScope3であり、自社だけの努力では算出も削減も難しいものとなっています。

パーテックでは、より実態に即した算出方法を検討するなどし、排出量の原単位の改善に取り組んで参ります。

CNに向けた取り組み例(2024年度実施)

連休中の溶湯抜き取り



物流費改善活動



設備更新による電力削減



溶解保持炉をガス→電気に変更



順守評価

①水質(水質汚濁防止法)

水質汚濁防止法に基づく最終排水口での水質測定結果
(測定業者からの計量証明書より)



		pH(水素イオン濃度)	BOD(mg/L)	COD(mg/L)	SS(mg/L)	評価
排水口	自主管理基準値	6~8.2	18以下	108以下	36以下	○
	測定結果(平均)	7.1	4.6	8.5	5.5	
雨水水門	自主管理基準値	6~8.2	18以下	108以下	36以下	○
	測定結果(平均)	7.6	2.3	5.7	5.3	

②大気(大気汚染防止法)

大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設での測定結果
(測定業者からの計量証明書より)



		塩素(mg/m³)	塩化水素(mg/m³)	フッ素化合物(mg/m³)	評価
溶解炉	自主管理基準値	20	50	2.8	○
	測定結果(最大値)	0.3未満	0.7	0.7未満	

③環境関連法令順守

順守内容	順守評価	評価内容	処置内容(概略)
省エネ法届出	◎	—	—
PRTR法届出	◎	—	—
水質測定	◎	—	—
大気測定(ばい煙)	◎	—	—
騒音測定	○	定期測定結果:敷地境界線において基準値オーバー	スクラバーの夜間稼働を停止、その他の騒音源については適宜対策を検討。敷地境界付近に遮音壁を設置。

産業廃棄物

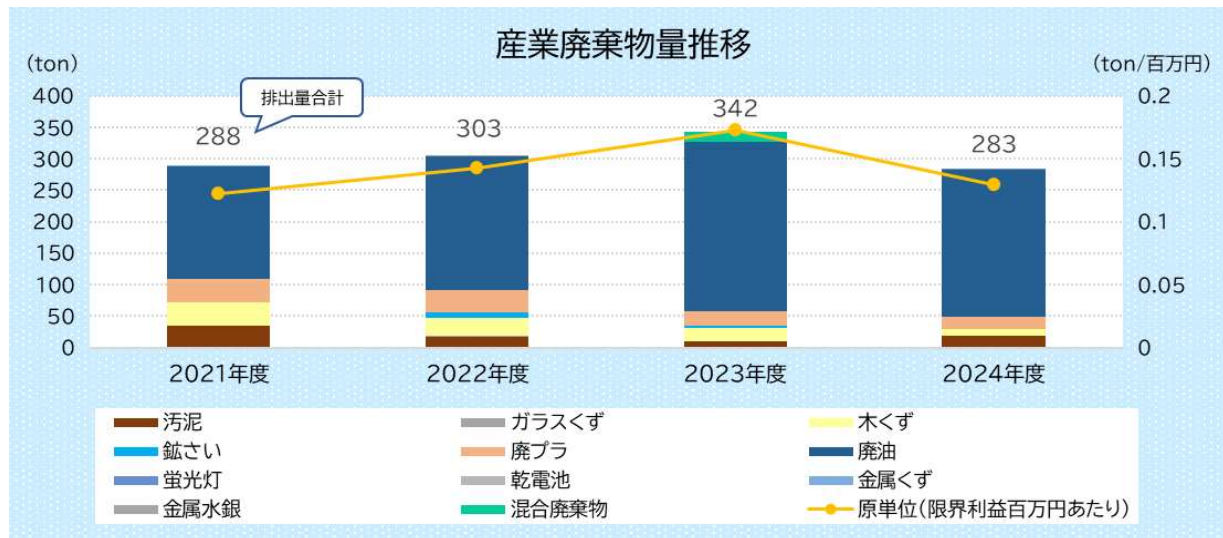
2023年度中期より、総務による産業廃棄物(24年度は主に廃プラスチック)削減活動を実施

【活動項目】

- ①減容機の更新…圧縮力が1/2から1/5にまでUP
- ②廃棄物回収BOXへの納め方の管理・改善…総務シニアによる毎日の管理徹底

【活動結果】

廃プラスチック類の排出量60%削減達成



今後の取組み内容

①省エネ活動

- CN長期目標必達に向けた活動計画を立案し、推進する
(固定費削減、新技術の導入、他社改善事例展開、効率化、時短、保温、常温化など)
- 再生可能エネルギー(太陽光発電)設置…2025年度はカーポート式太陽光発電が完成予定
- 消費電力削減
 - ・本受電キュービクル更新計画推進
 - ・省エネ化とM/T向上のため、更新設備は▲20%以上の低燃費設備を導入
 - ・エア圧低減(0.61Mpaから末端で0.4Mpaを目標に推進中)
 - ・コンプレッサーの台数制御による省エネ



②ゼロエミッションを継続し、廃棄物削減

- 目標の99%以上リサイクルの維持管理及びさらに有価物を増やす
- 3Rによる処分費削減…廃棄総重量の低減を分科会にて推進する

③化学物質の代替・削減

- 化管法・安衛法の改正への対応のため、環境化学物質管理の充実を図るとともに運用の監視を行う
- 社内使用有機溶剤の整理整頓・棚卸とSDSリストの更新を進める
- 設備の更新や技術の導入により、有機溶剤の使用量自体を削減する(減容装置や密閉型装置の設置)
- 化学物質統括管理責任者の指示のもと、化学物質管理責任者と化学物質管理者による日々の管理やリスクアセスメントの実施

④環境法令順守

- 環境法規等要求事項の教育実施、また変更管理規定に則った管理を進める
- 定例会議で組織責任者に法規順守状況の確認し、情報共有や漏れが無いように監視をする

INPUT

資源投入量

 エネルギー

● 電力	5,401.2 Mwh
● LPG	800.7 t
● 灯油	0.3 kL
● A重油	0 kL
● ガソリン	4.1 kL
● 軽油	0.6 kL

 化学物質

● PRTR対象物質	5.21 t
・ 1,2-ジクロロエチレン	1.94 t
・ トルエン	1.37 t
・ N-メチル-2-ピロリドン	0.60 t
・ メチルイソブチルケトン	0.23 t
・ エチレングリコールモノブチルエーテル	0.22 t
・ その他	0.84 t

 水

● 水道水	42,970 t
● 雨水	145,358 t

 原材料

● アルミダイカスト材	1,469 t
● その他金属	478 t
※鉄・黄銅・SUSなど	

パーテック

企画



生産



販売

再資源化率
100%

OUTPUT

排出量

 大気への排出

● CO ₂	4,679.5 t-CO ₂
● その他	大気汚染防止法における 特定施設の設置は無し

 化学物質

● PRTR対象物質	5.13 t
・ 1,2-ジクロロエチレン	1.94 t
・ トルエン	1.34 t
・ N-メチル-2-ピロリドン	0.60 t
・ メチルイソブチルケトン	0.23 t
・ エチレングリコールモノブチルエーテル	0.22 t
・ その他	0.79 t

 水系への排出

● 排水	16,325 t
● BOD	0.48 t
● COD	1.02 t

 廃棄物

● 総排出量	287.2 t
● 再資源化量	287.2 t
● 最終処分量	0.00t



環境基本理念

私たちは、「地球的視野にたつ」を共通認識として捉え、環境や社会との共存並びに次代の共栄のため持続可能な社会の実現に貢献します。

環境方針

私たちは、モビリティ並びに生活環境機器製品の設計・開発から製造・販売・使用、そして廃棄に至るまでの全過程を“ものづくり”と考え、環境負荷を継続的に低減し、且つ環境保護に貢献する活動に取り組みます。

1. 安全と環境に配慮した品質第一の“ものづくり”を全社員一丸となって実践し、人と技術を活かし豊かな社会づくりに貢献します。
2. 以下の具体的な活動に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。
 - ① 事業活動におけるあらゆるプロセスを短い時間で成し遂げることで生産性向上や省エネを実現する。
 - ② 上記①に加え再エネ導入や低炭素エネルギーへの切替えなどを行いカーボンニュートラル実現に取り組む。
 - ③ ライフサイクル全体で環境に配慮した設計を推し進め、グリーン調達された原材料・部品を用いた製品を広く提供する。
 - ④ 汚染や火災の予防及び安全を考慮し、有害化学物質の代替又は削減を進める。
3. 環境関連法規・規制・条例・協定などの国内外の要求事項、並びに地域社会やお客様からの要求事項を順守するとともに環境管理レベルの向上と汚染の予防に努めます。
4. 経営戦略として環境経営に積極的に取り組み、環境マネジメントシステムにより継続的改善に努めます。
5. ステークホルダーとのコミュニケーションを図り、継続的に良好な関係を維持します。
6. 活動の結果について評価し定期的な見直しを実施するとともに、当社で働くすべての人に対し目標の達成に向けた必要な教育訓練を実施します。

2022 年 4 月 28 日
株式会社 ミクニ
代表取締役社長

生田久貴

当社環境目標設定書

制定：2018年5月25日

改定：2024年5月30日

トップマネジメント

生田久貴

環境方針並びにミクニ環境マニュアル(EMS B-001)に従い、以下に全社環境目標を設定する。

	内 容
目標 1	事業活動におけるあらゆるプロセスを DX や MBD などの様々な技術や改善を活用し、短い時間で成し遂げることで生産性向上や省エネを実現する。 生産性向上には、生産スピード向上、社内外での製品不良の撲滅、業務効率向上などがある。
目標 2	再エネの導入や低炭素エネルギーへの切り替えなどの施策を講じることにより、CO2削減目標を2016年度比で以下とし、2050年度にカーボンニュートラルを実現する。 ・Scope1+2：2030年度に50%原単位で削減（吸収量のオフセット^{※1}含む） 小田原事業所にてカーボンゼロ開発に取り組む。 ・Scope3：2030年度に50%削減（カテゴリー10・11^{※2}を除く） ※1 吸収量のオフセット … 自社で削減困難な排出分を森林吸収分などで埋め合わせること ※2 カテゴリー10・11 … 10:販売製品の下流工程物流 11:販売製品の使用(走行、給湯など)
目標 3	ライフサイクル全体で環境に配慮した設計を推し進め、グリーン調達された原材料・部品を用いた製品を広く提供する。その結果、2033年度において以下を達成する。 連結売上：1,400億円、営業利益：115億円、営業利益率：8%以上
目標 4	人や生態系への有害性を考慮し、企業活動で使用する化学物質のうちPRTR法及びその他法令等^{※3}で指定される物質の含有品を代替、削減する。 ※3 その他法令等とは労働安全衛生法(有機溶剤や特定化学物質)、毒物劇物取締法などという
設定に至るプロセス ※	1. 著しい環境側面 有 害：CO2排出、エネルギー消費、環境汚染発生の可能性 有 益：不良品の抑制、部品業者によるエネルギーの抑制、環境負荷物質の抑止、環境配慮製品の拡販による排ガスの低下 2. 順守義務 省エネ法、地球温暖化対策推進法、大気汚染防止法、PRTR法、グリーン調達、顧客品質マニュアル、自動車部品工業会の「第9次環境自主行動計画」など 3. リスク及び機会 リスク：気候変動、災害及びそれによる汚染・火災、顧客からの信頼失墜 機 会：グリーン設計の開発と発展、火災・爆発の危険回避、売り上げ増、HV・PHV・EVシフト化、新技術の獲得、品質不良の低減 4. その他 政府によるCO2削減目標、SDGs、Vision2033/中期経営計画 定量目標 2030年度カーボンゼロ開発^{※4} ※4 新開発線建設、太陽光パネル設置+グリーン電力購入、電力以外のCO2削減△2%←事業所所有車EV化など

※ マネジメントレビューのアウトプットなど